

さわやかな風がとても気持ちの良い季節になってきました。ついこの前までの猛暑がうそのようです。

現在会員登録数 3,391 人さま。次回は 10 月 1 日に特別号 NO.6、10 月 20 日に NO.122 を発行の予定です。／

＋----- ◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----＋

■-----■
【1】お知らせ
■-----■

● MARUZEN & ジュンク堂書店 梅田店「IICLO コーナー」
MARUZEN & ジュンク堂書店 梅田店 7 階 児童書売り場に、IICLO
（大阪国際児童文学振興財団）コーナーを 7 月から作っていただいています。
メルマガや YouTube で紹介した本など、棚 1 面に紹介していただいています。
詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/m2_outline/05_topics/news.html#200725

● 「第 37 回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集
アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代
などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募
集しています。締め切りは 10 月 31 日（土）です。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#37boshu

● クレジットカードでご寄付いただけるようになりました
当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募って
います。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充て
させていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

クレジットでの寄付はこちらから（外部ページ）

Syncable（シンカブル）「大阪国際児童文学振興財団」ページ

<https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

● 当財団公式 Twitter → https://twitter.com/IICLO_News

■ ----- ■
【 2 】 コラム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Jun's Talk

『団地のコトリ』 八東澄子/著 ポプラ社 2020年8月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：中学3年生の美月（みづき）は、団地に母と二人暮らし。インコを飼っているが、ある日、逃げ出して1階下に住む柴田のじいちゃんの家を網戸に引っかかる。美月は、一人暮らしのはずのじいちゃんの家の中に影を見るが、実はそれは11歳の少女の影で、病気の母とともにじいちゃんの家の中に隠れ住んでいた。美月はバレーのクラブ活動や、進路や、同じ団地に住む幼馴染の愛梨との関係に悩みながら、階下の様子を気にし続ける。

J：リズムカルな文体で一気に読みました。そして、団地でお母さんと決して裕福な暮らしをしているわけではない美月は、バレー部で背が低くてクラブ内で自分の居場所が見つけれなくて苦しい思いをしながらも、母の苦勞を思いながら前向きに生きていこうとしている姿が印象的でした。

Y：冒頭は、インコのピーコに「いってきまあす」と声をかける場面から始まります。インコは亡くなった父方のおばあちゃんから譲り受けた鳥。美月がインコをかわいがることで、おばあちゃんや、やはり亡くなったお父さんとのつながりを大切にしていることが読者に伝わってきます。

J：そして、そのインコがきっかけで、美月は、独居老人の柴田のじいちゃんの家の中に誰かがいることに気づきます。この作品では、第2章から、じいちゃんの家の中に隠れ住んでいる11歳の少女の視点から書かれた文章が異なる文体で挿入され、読者は、その少女が誰なのか、いつ見つかるのかを気にしながら読み進めていきます。少女はインコの飼い主の美月を、軽やかに階段をかけあがる様子から「コトリちゃん」と名付けます。

Y：そういう意味で、タイトルの「コトリ」はインコと美月の二重の意味を持っているわけですが、「団地」という場も、この作品の重要な要素になっています。

美月の幼馴染で4人のきょうだいと両親と団地に住む愛梨は、両親がいない間に、ぼやを起こしてしまいます。

J：大家族、貧困、母子家庭、独居老人、ネグレクト、いじめなど、現代社会の問題を描きながらも、重苦しく描かれていない点がこの作品の特徴だと思います。

Y：そこには、どんな状況にあっても、人々が支えあう状況であれば、子どもたちは自分の力で未来を切りひらいていけるというメッセージを受け取りました。

J：最後はややうまく収まりすぎたようにも思いましたが、ほっとした自分がいたのも確かです。

* 今回のゲストは当財団特別専門員で、武庫川女子大学の遠藤純（J）さんです。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第61回「檜ノ木大学士の野宿」

叙事詩の形式

前回の「気のいい火山弾」(当メルマガ NO.120)で、みんなにばかにされていたベゴ石は、おしまいには、立派な標本として東京帝国大学地質学教室に運ばれます。「檜ノ木大学士の野宿」は「檜ノ木大学士は宝石学の専門だ。」と語りはじめられますが、大学士も、地質学教室で勉強した人なののでしょうか。

作品を読みはじめて、すぐに気がつくのは、その独特の形式です。地の文が行分けの詩で、そこに、大学士や登場するものの台詞がはさみこまれます。「貝の火兄弟商会」の赤鼻の支配人の依頼で、上等の蛋白石を探しに行った大学士が三晩にわたって野宿をする物語ですが、つぎは、「野宿第一夜」のはじまり。

〈四月二十日の午後四時頃、
例の檜ノ木大学士が
「ふん、この川筋があやしいぞ。たしかにこの川筋があやしいぞ」
とひとりぶつぶつ言いながら、
からだを深く折り曲げて……〉

こうした語り方を「ちょうど浪曲が採用しているような叙事詩形式」とするのは、天沢退二郎です。安斎竹夫編著『浪曲事典』(1975年)の「浪曲名作抄」を見ると、「〱利根の川風、袂に入れて、月に掉さず高瀬舟、……」(「天保水滸伝」)、「〱義理の片われ月夜の鴉、泣いてくれるなお前が泣けば、背中の勘坊目をさます。……」(「赤城の子守唄」)というふうに、浪曲の地の文は、行分けこそされていないものの、読点(、)で区切られ、節をつけて語られる韻文です。そのあいだに、「浅叔父ちゃん、こわいよ、お家へ帰ろうよ……」「何を云うんだ勘坊、……」(同前)と台詞が入ってきます。

大学士は、野宿の夢のなかで、第一夜、第二夜には鉱物たちの声を聞き、第三夜には雷竜に遭遇します。しかし、大学士が冒険の果てに持ち帰ったのは、30個ほどの下等な玻璃蛋白石でした。それでも、「……あやしいぞ。……あやしいぞ」といった繰り返しの表現を多くふくむ語りは、高揚感を引き出します。リズムカルともいえる語り口によって、大学士は、ずいぶん生き生きと描かれるのです。赤鼻の支配人は、仕事の結果に怒って帰りますが、大学士は、葉巻を横にくわえて、天井をななめに見ながら、にやっと笑うのでした。

(馬車別当)

(本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。)

《3》子どもの本の珠玉のこぼれ 15

「しかしクローディア姫、どこにわれらがお風呂はありますか？」
「噴水でございますよ、ジェームズ卿、噴水でございます。」

（『クローディアの秘密』 E.L. カニグズバーグ/文と絵 松永ふみ子/訳
岩波書店 1969年10月初版、岩波少年文庫2000年6月）

ある講座のために、『クローディアの秘密』を再読しました。初めてであったのは、10歳になったばかりの4月。新書版にあこがれていた私は、書店に行き、旧版の岩波少年文庫の中からタイトルを見て選びました。

子どもの時の記憶はいい加減で、この作品全体がフランクワイラー夫人によって書かれたという枠組みになっていることや、後半でクローディアが天使像の秘密に夢中になっていくことは覚えておらず、弟ジェームズとメトロポリタン美術館へ家出したということだけが強く印象に残っていました。そして、美術館や博物館へ行ってトイレに行くたび、このトイレのどれに入れば、見つからないか、この美術館なら、どこで夜を過ごすかをいつも考えていました。

引用の部分は、クローディアが弟を誘ってレストランの中にある噴水をお風呂に見立てて入る場面。裸になって誰もいない美術館の中で芸術品とともに、自由になる解放感（これは、カニグズバーグ自らが描いた絵でも）が表現されています。そこでは、クローディアとジェームズは貴族になりきります。つまり、ごっこ遊びの極みです。そして、噴水の中で人々が投げ入れたお金を見つけて、それ以降、経済的に安定するのです。クローディアの幸せを自分のことのように思った記憶が残っています。

『クローディアの秘密』は、家出物語であり、アイデンティティの物語であり、芸術や秘密についての物語ですが、子どものときの自分がこの場面に心ときめかせたことを忘れないで読み続けたいと思います。（Y）

《4》 行って来ました！

京都のギャラリーヒルゲートで、明日9月20日まで開催されている「司修展「絵本との関係2020」」に行ってきました。画家で小説家の司修（つかさおさむ）の絵本『サーカスがやってきた』『春をまつ本』、宮沢賢治絵童話集『どんぐりと山猫』などの原画、航空会社の機内誌『ARCAS』の表紙絵、著書『空白の絵本』の挿絵のペン画など約70点が展示されています。

今回、すべてのページの原画が展示されていた『サーカスがやってきた』（『ロンパールームのほん4』 野村トイ 1966年10月 大阪府立中央図書館国際児童文学館に所蔵あり）は、30歳の頃に描かれた3作目の絵本です。ゾウの玉乗りやライオンの火の輪くぐりなどが繰り広げられているサーカスが舞台。主人公のこぐまが芸に失敗したり手品の道具にされたりしながら、動物たちにはげまされて奇術を習得するお話です。赤・黄色・青・緑の暖かい色合いの油彩を使って表情豊かな動物たちが描かれ、曲芸の動きが楽しい絵が展開しています。

機内誌『ARCAS』の表紙絵（1997年～2004年）は、「ジクレ技法」という、コンピューターグラフィックで制作された絵を特殊な顔料を使って刷る手法で作られています。北海道の湿原や、屋久島の千年杉、岩手の小岩井農場など、現地を取材して描かれた幻想的な世界が広がります。

『ARCAS』の表紙絵の中には、子どものころに読んだ『死の国からのバトン』（松谷みよ子著 司修絵 偕成社 1976年）を思わせる作品があって懐かしい気持ちがいっぱい、再読したくなりました。（K）

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

●「村上康成の世界展 絵本表現へのチャレンジING & ワイルド・ライフ・アート」

会 期：10月3日（土）～11月15日（日） 月曜休館

時 間：9：00～17：00 入場料：無料

場 所：刈谷市美術館

主 催：刈谷市美術館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『団地のコトリ』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.121 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は10月10日（土）、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

暑さを避け、しばらく休んでいたウォーキングを再開しました。雲の形が秋らしくなり、アキアカネが舞い、季節の移ろいを感じます。付近に人のいないことを確認しつつ、マスクを外して深呼吸。さらなる秋を感じながら、近いうちに以前の日常が戻ってくることを心から願いました。（TA）

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail : office@iiclo.or.jp
